
出版情報

書名・件名	昭和42年 労働経済の分析
編集者・監修者	労働省
発行日	

昭和42年労働経済の分析の発表にあたって

日本経済が急速な成長をとげてきた要因の一つとして質的に優秀な労働力が豊富に供給されてきたことがある。かつては人手があまる状態にあったためにその有難味が充分認識されなかったが、最近のように人手不足が広がってくると実感としてもそれがわかってきている。しかし、優秀な労働力を容易に得ることのできる時期はすぎさろうとしている。これからは限られた労働力をいかに活かすか、どのようにしたら労働者がその能力を充分発揮することができるかを考えなければならない時期である。

しかし、現状では、労働力の使い方について多くの無駄があるし、また個々の労働者の能力の開発向上とその充分な発揮に対する配慮が払われているかどうかにも疑問がある。これは個々の産業や企業における人の使い方の問題であると同時に、国全体の経済政策や労働政策の問題でもある。この問題の解決に当っては、労働の担い手は人間であることを銘記し、人間尊重の立場を見失うことなく、労働者の生活の向上、職場環境の改善などにも充分意を用いていかなければならないことはいうまでもない。

42年は、景気がよかったために、人手不足がやや強くあらわれたこともあったが、冷静に考えると、人手不足への対処の仕方いかんが将来の日本経済の発展の一つの決め手になるかもしれない。

本年の分析では以上のような考え方にたって例年のように42年の労働経済の動向を紹介するとともに、労働力の供給事情の変化やそれに対応した雇用、賃金構造の変化についても分析を試みた。

本報告は労働大臣官房労働統計調査部が中心となってとりまとめたものであるが、これがわが国の最近の労働事情について関係者の認識を深め、今後の適切な判断に資するところがあれば幸いである。

昭和43年6月 小川 平二 労働大臣